



佐藤啓代表取締役社長

(株)サニックス

創業 昭和45年(1970)7月
資本金 3,050万円
本社 〒990-2211
山形市十文字812番地
☎023-687-3111



若い力で課題に挑戦

「思いを共有」——100年企業を目指す

50年前にわずか8名で創業した自動車総合整備業の(株)サニックス。その後、コンクリート圧送業の(株)ヤマコンのグループ社となり、現在、若手社員を前面に働き方改革を実践。経済産業省の新・ダイバーシティ企業100選(2019年度)に選ばれた。佐藤啓代表取締役を訪問し、これまでの取り組みなどをうかがった。

「働く車」の快適環境創造

当社は今年創業50周年、サニックスに名称を変更して10年の節目の年を迎えました。

1970年、ニッシン自動車(株)として山形市に設立。働く車の車検整備や定期点検・一般修理を業務とし、2010年に同市の三栄自動車工業(株)と経営統合し(株)サニックスに

名称を変更。整備事業だけでなく、トラックボデー架装や鍍金塗装、事故処理、特殊機械の点検整備など、多様な働く車の総合サービスをワンストップで提供する東北で数少ない企業として歩み続けています。

経営理念に「100年続く企業・人が輝く職場作り・明るい未来を育む」を掲げ、積極的に働き方改革を進めています。以前のことになりません。業界の調査で若い女性の方が自動車整備工場に対して「サスペンションの殺人犯が働いている所」というマイナスイメージを持っていることに愕然としました。2012年、社長に就いて真っ先に取り組んだのが、職場環境を改善しイメージを一新することでした。

その当時のわが社は、自動車整備事業の機械化が難しいことや、若者

委員会で「共に育つ」実践

「人が輝く職場づくり」等を実現するため、まず着目したのが若手人材の確保。当社の新卒採用は1995年4月を最後に18年間採用はありませんでした。山形大学と連携し同大の1年生を対象にインターンシップ

受け入れを開始し、ベテランではなく若手社員に指導を任せました。企業理念や自分の仕事を学生に教えることよって、あらためて仕事の意味を理解し自らも学ぶというプログラムです。この結果、2013年4月に新卒1人が入社したのをきっかけに、これまで24人もの新卒社員が入社しています。

人材確保という面では大きな成果を上げていますが、業務の性質上、指示されることが多くミスが許されず、実際の作業現場では技術力をはじめ自信を失いかねません。彼ら

のように育成、そして定着させるのが次の課題となりました。

そのため、社員の高齢化による保守的な考え方の改善を兼ねて、若手社員を含めた全社員の『共有』の一環として2016年より「社内委員会活動」を始めました。社内各部署を横断した委員会活動は「社内報・朝礼・イベント・社員教育・安全衛生・5S・品質管理・環境」の8つに分かれており、そこでは若手社員が委員長など重要な役割を担っています。

ベテラン社員を巻き込みながら一緒に企画・活動することによって、実際の現場ではまだまだ未熟な若手社員でも、若者ならではの感性を会社のためにいかんなく発揮でき、ベテラン・先輩社員は若手から学ぶこ

とで、現在では現場業務に活かされ、さらに16年からは「健康経営」を実践しています。

社内情報共有に3ツール

社内委員会活動、健康経営といった取り組みの中心となるのがインターネット・コミュニケーションで、そのツールとして「社内報」「活力朝礼」「社内SNS(LINEWORKS)」を活用しています。

「社内報」は若手社員が中心となっており4回発行。業務内容・イベント情報・各種制度といった情報と私のコラムを社員とその家族、取引先企業、学校等に配布します。

「活力朝礼」は毎朝社員が顔を合わせることで健康状態を把握できるほか、朝礼担当社員が自分の目標や想いを発表する場です。

インターネット・コミュニケーションの中心と位置付けている「社内SNS」は、LINEEを活用し業務改善提案制度の構築、各部門での業務内容の共有、健康経営の取り組みなどの状況を報告。片方向(会社から社員)の情報提供から、双方向(社員から社員、社員から会社、会社から社員)へ転換。リアルタイムで全社的に共有しています。

これらの取り組み・成果が認められて17年に経済産業省の「地域未

来牽引企業」18年に山形労働局から働き方改革企業として「ベストプラクティス企業」の認定を受け、今回の「新・ダイバーシティ企業100選」へ結びつきました。

トラックEV化に挑戦

一方、インターンシップを通じて山形大学とのつながりが深まり、現在、山形大学国際事業化研究センターの支援を受けて、計画発電蓄電システムを開発し、同システムを利用したトラックの電気自動車(EV)化に取り組んでいます。

このシステムは3次元の地理情報システム(GIS)などIoT技術を活用し、走行予定ルートや地形から必要な消費電力量、発電時期を予測計算。電池残量も加味し、小型発電機によって必要な時に必要な量を計画的に発電、蓄電、消費分しか発電しないため発電機と電池の小型化が可能となり、この技術とトラックのEV化が進めば二酸化炭素排出量を大幅に削減できます。事業は環境省に採択され、計画発電制御装置開発のエーシテックノロジーズ(横浜市)と第一貨物(山形市)、山形大学(山形市)連携し、21年度にかけて実証実験を行う予定です。

全員が課題を共有し解決していく活力ある企業をめざします。



社員一同いつも笑顔でお迎えます



サニックスの自動車整備工場。専門知識と技術、資格を持ったスタッフがワンストップでサービス

17 商工月報 — The Yamagata Chamber of Commerce & Industry